

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立幸小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒441-8113

愛知県豊橋市西幸町笠松183番地

E-mail miyuki-e@toyohashi.ed.jp

Website http://www.miyuki-e@toyohashi.ed.jp

幼児児童生徒数 男子 459名 女子 480名 合計 939名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「笑顔あふれる元気な学校」（思いやりのある子・すすんで学ぶ子・たくましい子）を学校理念として、ESDを地域や社会の様々な問題を捉え、ESDの実践を通して考えるの力の育成を目標とした。

具体的には、①地域に係わる活動、②環境に係わる教育、③福祉に係わる学習、④命に係わる学習を行った。

① 地域に係わる活動（3年）

地域の人々や文化に対する目を広げることをねらいとし、昔遊びを教えてもらうという活動を通して、地域のお年寄りの方々と交流している。

「昔の遊びを教えてもらう～第一回交流会」を行った。第一回交流会では、老人会の方々から遊び方や上手に遊ぶためのコツ、そしてその遊びの歴史などを教えてもらうことができた。第二回交流会では、調べたことや教えてもらったことを発表し、上手にできるようになった自分たちの腕前を披露する。児童は遊びの種類ごとにグループに分かれ、楽しくわかりやすい発表になるよう、工夫し、意欲的に練習に取り組んだ。

② 環境に係わる教育（４年）

学校のすぐ隣には、「清水池」という池がある。清水池の移り変わりについて学ぶことで、現代の自然環境を理解するとともに、未来の自然環境や町づくりの在り方について思いを深めることができると考えた。外来種や在来種の生きもの・水の汚れ・ごみの処理・歴史など、さまざまな視点から清水池を見ることで、「自然を守る」ということと「人が住みよい社会」ということについて真剣に考えた。どちらも理想通りにすることは難しいが、考え続けることや互いの問題点を一つでも解決する方法を見つけられたらいいとふり返ることができた。こうした経験が、将来の幸校区やさまざまな自然を大切にしたい思いの礎になると考える。

③ 福祉に係わる学習（５年）

お年寄りや障害のある人に目を向ける経験は、生きていく中で大切になってくる。弱い立場の人と共生していく力を小学生のうちから高めていくことが必要である。総合の時間を中心に進めている。前期には、「人にやさしいまちづくり塾（車いす体験）」と「ユニバーサルデザインって何？」の２つの出前講座の場を設けている。

車いす体験では、実際に運転してみて大変であることに気づいたり、まわりのサポートがなければうまくいかないことに気づいたり、障害のある人とその周りの人の大変さを理解することができた。ユニバーサルデザインの話聞いたときは、手の力がないお年寄りでも外しやすいマグネット、視力の悪い人でも触ってわかるシャンプーとリンスの容器の刻みなど、身近なところにユニバーサルデザインがあることを知るとともに、ちょっとした工夫で様々な人たちが生活しやすくなるということに気づくことができた。

④ 防災に係わる学習（６年）

「わたしたちの防災」というテーマのもと、災害などから身を守るために体験的な活動をふまえながら学習に取り組んでいる。大きな地震や津波などの災害がいつどこで起こるかわからないという危機管理能力を育むとともに、実際に起きた時にどのような行動をとるべきかといった実践的な力を身につけることができるように学習を進めた。

豊橋市防災危機管理課の方に来ていただき、講話やめぐる巻のワークショップを行った。いつどこで何をしているかという設定を行い、どのような行動をとるか細かく考えることで危機管理能力を身につけることができた。



①老人会の方との交流会



②ゲストティーチャーを招いて



③車いす体験をする５年生



④起震車を体験する６年生

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての活動は、総合的な学習のカリキュラムの中に位置づけ、年間を通して計画的に実施している。また、地域の方や関係機関等と連携した活動も、年度当初の計画に盛り込んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD 担当者を配置し、各学年の取り組み状況や地域とのネットワーク作り等を、中心となって推進している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動の質を向上するために、活動を進める中で、内容や問題点を洗い出し、次の活動の修正や次年度の改善点などを考えている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESDで学習した内容について、11月に行われた学習発表会で保護者や地域の方々に、その成果を発表した。発表会を通して、学んだことやこれから自分たちがしていかななくてはならないことなど、劇やポスターセッションなどで伝えることができた。どうしたら自分たちの学習した内容をわかりやすく伝えることができるか考えることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

地域の老人会や祭りの保存会、市の関係機関、地域にある老人介護施設など、多岐にわたる人々と交流を図りながら、ネットワークを広げている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流は現在できていない。同じ内容の取り組みを行っている学校との交流をすることで、子どもたちの学習を深めていくことができることも考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

子どもたちが地域や様々な社会問題等に目を向けることができ、その取り組みを通して、考える力を養うことができるようになる。また、地域の方々の協力を得ることで、地域のよさを理解し、地域の一員であるという思いをもつことができる。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も総合的な学習の時間に、以下のような活動を実施したい。

- | | | |
|----|------|---|
| 3年 | 地域学習 | 三世代交流で昔遊びを学ぶ、地域の祭りを学ぶ |
| 4年 | 環境学習 | 「水とごみ」「リサイクル」「地域の環境」 |
| 5年 | 福祉学習 | 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」
「地域の老人介護施設の方との交流」 |
| 6年 | 防災学習 | 「地震から命を守る」 |